

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：宮崎大学大学院教育学研究科 内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2013.10.15

NO.214
.....

科学教育研究レター



目 次

■ 総会2	■ 研究会・支部だより10
第 37 回定時総会報告		2013 年度研究会開催のお知らせ	
■ 理事会だより4	2013 年度支部シンポジウムのお知らせ	
第 257 回理事会報告		■ 国際交流委員会だより12
第 258 回理事会報告 (案)		国際学会開催情報・海外の科学教育動向	
2013 年度顧問会・評議員会・		国際学会参加報告 (11)	
支部役員会合同会議報告		国際学会参加報告 (12)	
■ 年会9	■ 編集委員会だより	
第 37 回年会開催報告		特集締め切り延長のお知らせ.....16	
第 38 回年会開催案内 (第 1 次)		2013 年度第 1 回編集委員会報告	
■ 若手の会10	■ 広報委員会からのお知らせ.....17	
第 37 回大会・若手の会報告			

第 37 回定時総会 議事要録

日 時：2013 年 9 月 7 日（土）15：15～16：45

場 所：三重大学共通教育校舎 1 号館 120 番教室

- 開催校 学長挨拶 (内田淳正 三重大学長)
- 次 第 (進行：小川義和 理事)
1. 開会の辞 (片平克弘 副会長)
 2. 第 37 回年会実行委員長挨拶 (下村 勉 委員長)
 3. 会長挨拶 (中山 迅 会長)
 4. 議長選出
定款第 26 条により、中山迅会長を議長に選出した。
 5. 議事録署名人委任 (中山 迅 会長)
議事録署名人を、下村 勉（三重大学）、清水 誠（埼玉大学）の両会員に委任することを、拍手をもって承認した。
総会出席者 107 名、委任状 70 通で定時総会成立を確認した。
 6. 審議 (議長：中山 迅 会長)
 - 1) 第 1 号議案の提案 (飯島康之・猿田祐嗣 理事)
2012 年度事業報告書及び収支決算書の説明と提案が行われた。
 - 2) 監査報告 (堀 哲夫・熊野善介 監事)
監査の結果、学会のすべての会計処理が適正に行われていたことを確認した旨の報告があり、第 1 号議案は承認された。
 - 3) 第 2 号議案の提案 (飯島康之・猿田祐嗣 理事)
2013 年度事業計画書及び収支予算書（案）の説明と提案が行われ、第 2 号議案は承認された。
 - 4) 第 3 号議案の提案 (飯島康之 理事)
新役員候補者選出の経過説明と提案が行われ、第 3 号議案は承認された。
 - 5) 第 4 号議案の提案 (余田義彦 副会長)
 - ・現行定款の改定について
現行定款の改定について説明があり、総会出席者 101 名中挙手 92 名及び委任状 70 通により 2/3 以上の賛成をもって承認された。
 - ・一般社団法人の設立と学会の解散について
一般社団法人の設立について承認された。新法人が設立された場合に限り次回の定期総会を以て学会を解散するというので、総会出席者 107 名中挙手 105 名及び委任状 70 通により 3/4 以上の賛成をもって承認された。
 - ・新法人への残余財産の移行について
新法人への残余財産の移行について、総会出席者 107 名中挙手 100 名及び委任状 70 通により 2/3 以上の賛成をもって承認された。

- ・一般社団法人の定款案について
一般社団法人の定款案について提案があり、総会出席者 106 名中挙手 103 名及び委任状 70 通により過半数の賛成をもって承認された。
- ・法人設立時の理事（3名（うち1名は代表理事）、監事（1名）の選任について
新法人設立時の理事及び監事について提案があり承認された。
- ・会員の新法人への自動移行、評議員選挙、役員候補者選挙について
会員の新法人への自動移行、評議員選挙、役員候補者選挙について説明があり承認された。

7. 表彰

- 1) 学会賞選考委員会での選考経過の報告 (小山正孝 理事)

学会賞選考委員会での選考経過の報告が行われた。

- 2) 表彰 (中山 迅 会長)

大塚賞

- ・小川正賢（東京理科大学）

学術賞

- ・西之園晴夫（特定非営利活動法人学習開発研究所）

科学教育実践賞

- ・奥山英登（旭川市旭山動物園）及び旭川市旭山動物園
- ・尾嶋好美（筑波大学生命環境科学研究科）及び筑波大学 SS リーグ運営委員会

奨励賞

- ・小松孝太郎（信州大学教育学部）
- ・野添 生（広島大学附属東雲中学校）

年会発表賞

- ・川上 貴（聖徳学園小学校）
- ・大滝孝治（広島大学大学院教育学研究科・院生）

8. 次年度第 38 回年会実行委員長挨拶 (清水 誠 委員長)

9. 閉会の辞 (片平克弘 副会長)

議事録署名人署名

日本科学教育学会第 37 回定時総会の議事が、上記のように執り行われたことが間違いないことを証します。

下村 勉（第 37 回年会実行委員会実行委員長） 清水 誠（第 38 回年会実行委員会委員長）

日本科学教育学会第 257 回理事会報告

(要点のみ参考掲載)

日 時 2013 年 6 月 15 日 (土) 14:00~17:00

会 場 コクヨ 品川オフィス会議室

出席者 会長 中山

理事 片平 余田 土田 小川 銀島 猿田 益子 小山 隅田
高藤 日野 今村 縣 谷塚

監事 熊野

幹事 青山

委員会 国際交流 編集 吉川

顧問・名誉会員 三宅

1. 議事要録(案)の承認

○第 256 回理事会議事録(案)について、p.2、20 行目にある「学会賞検討委員会」という表記を「学会賞選考委員会」に修正し、承認した。

2. 第 257 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果 【回覧資料 1 (入会者一覧)】

○事務局からの発議により、5 月 30 日までに入会を希望した 20 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された(6 月 10 日)。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理(刊行物送付を含む)の報告があった。

2) 機関誌編集

○「科学教育研究」の編集状況について報告があった。

○論文執筆要項の改訂と査読システムの更新について報告があった。

○掲載不可判定論文の修正投稿の扱いの検討結果について報告があった。

3) 学会賞

○最終候補者の報告があり、承認した。

4) 支部・研究会

○2012 年度及び 2013 年度支部活動及び研究会の開催について報告があった。

○支部規程及び研究会規程の改訂について報告があった。

5) 調査研究・学術交流

○サイエンスアゴラ 2013 への企画参加の調査について、共催・参加する方向で承認した。

6) 年会企画

○第 37 回年会（三重大会）の準備状況について報告があった。

○第 38 回年会（埼玉大会）の開催日程について報告があり、開催日程について承認した。

7) 広報・学会 IT 化

○学会通信 2013 の編集・発送日程（案）について報告があった。

○学会通信 2013 の目次に、法人化対応のための定款案に関する項目が追加された。

8) その他

○法人化について、税理士との契約、収益事業開始届出書・給与支払事務所等の開設届出、支部活動の経理について（5 月 30 日依頼：支部会則、収支決算書作成、残金・謝金処理）、年会での経理について（6 月末に中西印刷で協議予定）、平成 24 年度会計監査（7 月 25 日・木・中西印刷東京事務所）について報告があり、協議事項と合わせて検討した。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者は無いとの報告があった。

2) 国際交流

○ICASE との交流再開について、交流再開の方向で進めることを承認した。

3) 第 37 回総会資料について

○各理事に対して担当箇所に関する情報提供の依頼があった。

4) 学会法人化について

○法人化のロードマップと定款の改定について提案があり、承認した。

○一般社団法人日本科学教育学会の定款案について、現行定款との変更点について説明があり、検討及び修正が必要な点はあるものの、大筋については承認した。

○法人化経理の進め方及び法人化後の事務経費見積もりについて報告があった。

5. 次回以降の理事会予定

・第 258 回：2013 年 9 月 6 日（金）15:00～16:00 場所：三重大学共通教育校舎 1 号館 206 講義室

・第 259 回：2013 年 11 月 16 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

日本科学教育学会第 258 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2013 年 9 月 6 日（金）15:00～16:00

会 場 三重大学共通教育校舎 1 号館 205 講義室

出席者 会長 中山

理事 片平 余田 小川 飯島 猿田 益子 銀島 寺田 小山
今村 鈴木 縣 清水 隅田 高藤 日野 久保田 谷塚

監事 熊野

事務局長 土田

幹事 青山

委員会 国際交流 千葉 編集 吉川

1. 議事要録（案）の承認

○第 257 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 258 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により、6 月 30 日までに入会を希望した 14 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（7 月 8 日）。

○事務局からの発議により、7 月 31 日までに入会を希望した 11 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（8 月 8 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

2) 経理・会員

○7 月 25 日に会計監査を受けたことが報告された。

○8 月 23 日に法人税の申告、8 月 26 日に府民税・市民税の申告を済ませたことが報告された。

3) 機関誌編集

○機関誌編集状況について報告があった。

4) 学会賞

○第 37 回年会（三重大会）での表彰の準備状況等について報告があった。

5) 支部・研究会

○支部及び研究会活動について報告があった。

○支部規程研究会規程の改訂について報告があった。

6) 調査研究・学术交流

○学会会議と共催のサイエンス・アゴラでの連携企画について報告があった。

7) 国際交流

○ICASE との交流再開について、年会費の支払いも完了し、ICASE の次回年会に参加する旨の報告があった。

8) 年会企画

○第 38 回年会（埼玉大会）の日程（9 月 13 日～15 日）について報告があった。

9) 広報・学会 IT 化

○『科学教育研究レター』の編集・発行日程について報告があった。

○学会 Web サイトの法人化対応について報告があった。

10) 組織改革

○なし。

11) その他

○なし。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者 38 名の退会を承認した。

2) 今年度の事務委託契約について

○中西印刷との事務委託契約内容について報告があり承認した。

3) 第 37 回総会資料について

○第 37 回総会の議事次第及び議案について説明があり承認した。

4) 学会法人化について

○定款案（8 月 6 日版）に修正を加えた定款案（9 月 6 日版）について説明があり承認した。

○規程等の見直し・整備が必要な項目について説明があり、次回理事会までに点検・修正することが確認された。

○法人化部会に支部研究会担当理事と編集担当理事を追加する旨の提案があり承認した。

5) 国立国会図書館「オンライン資料収集制度」への申し出について

○次回理事会で検討することとなった。

6) その他

○片平理事を部会長として機関紙電子化部会を発足することが提案され承認した。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第 259 回：2013 年 11 月 16 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス
- ・第 260 回：2014 年 3 月 15 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス
- ・第 261 回：2014 年 6 月 21 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

2013 年度顧問会・評議員会・支部役員会合同会議報告



日時：2013 年9月6日（土）16:00～18:00

会場：三重大学 共通教育校舎1 号館120 教室

2013年度顧問会・評議員会・支部役員会合同会議は、顧問（2名）、評議員（17名）、支部役員（1名）、役員（17名）、年会実行委員長（1名）が出席して開催された。中山迅会長と下村勉年会実行委員長の挨拶、各自の自己紹介に続いて、中山迅会長と余田副会長から、法人化に向けたロードマップ、総会での審議事項、さらに今後の検討課題を含め説明があり、参会者からこれらについて質問や意見が出された。

第 37 回年会 開催報告

日本科学教育学会第 37 回年会は、2013 年 9 月 6 日（金）～8 日（日）の 3 日間の日程で、三重大学において開催されました。

今回は、「学びの原点への回帰・学習の質を高める科学教育研究-」をテーマに、基調講演 1 件、招待講演 2 件、課題研究 17 セッション、一般研究 20 セッション、インタラクティブセッション 23 件、懇親会、総会、各種委員会などのプログラムで、事前申込 223 名、当日参加 186 名（三重大関係者を含む）、計 409 名と、地方開催としては多くの参加者を得て、盛況のうちに終えることができました。

三重県での年会の開催は、初めてのことで、スタッフ一同最善を尽くしてきましたが、慣れないこともあり、行き届かない点も多くあったかと思えます。特に、当日に会場変せざるを得なかったことや、当日参加者数を過小評価し、講演要旨集や USB、名札が不足して、ご迷惑をおかけしたことが反省点です。事前申込の参加費の割引率を大きくし、当日参加者の割合をできるだけ低くする工夫が必要だったと思えます。

しかし、伊勢神宮の式年遷宮の年に三重県で年会を開催できたこと、そして、おおむね順調に大会運営ができたこと、さらに懇親会で話題になった翌朝に 2020 年のオリンピック・パラリンピックの東京開催が決定されたこと、学会にとっても法人化の決定など大きな節目の大会であったことなど、実行委員にとっても記憶に残る年会となったことをとてもうれしく思っています。

今回の年会では三重大学としても新しい試みを行いました。CST（Core Science Teacher Program）の一環として現職教員の皆さんに、学会に参加してもらおうと同時に、年会運営の一端を担ってもらったことです。この試みが、三重県で科学教育学会が発展する布石になればと願っております。

最後になりましたが、本年会の開催に当たり、年会企画委員会の谷塚光典先生を始めとする企画委員の皆様、協賛・後援をいただいた各団体の皆様、スタッフとして運営に協力いただいた現職教員・院生・学生の皆様には大変お世話になりました。深く感謝いたします。また、三重大学にご参集いただき、活発な議論で実りある大会にさせていただいた会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

日本科学教育学会第 37 回年会実行委員会委員長 下村 勉

第 38 回年会 開催案内（第 1 次）

1. 日程：2014 年 9 月 13 日（土）～15 日（月）（3 日間）
2. 会場：埼玉大学教育学部校舎・大宮ソニックシティ
3. 連絡先：日本科学教育学会第 38 回年会実行委員会
〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学教育学部 小倉康

第37回大会・若手の会 報告

若手の会は、年会の初日9/6（金）の夜に、津市のお店で開催しました。参加者数は、企画担当委員を含めて、約10名でした。20代、30代に限らず、さまざまな年齢層の方々にご参加頂きました。

会合では、専門分野の異なる「若手」が、それぞれの興味・関心について気さくな雰囲気でも話し合うことで、普段とは違う刺激を受けたり、科学教育の今後の展望なども語り合ったりしました。ご参加頂いたみなさま、ご支援頂いたみなさまに感謝申し上げます。

ここ数年間、若手同士のネットワークづくりを目的に会合を開催してきました。また来年度の企画を考えていきたいと思っておりますので、今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

■第37回年会「若手の会」企画担当委員

加藤久恵（兵庫教育大学） *katohi [at mark] hyogo-u.ac.jp*

増田有紀（東京成徳大学） *y-masuda [at mark] tsu.ac.jp*

向 平和（愛媛大学） *muko [at mark] ed.ehime-u.ac.jp*

研究会・支部だより

2013年度研究会開催のお知らせ

2013年度開催する研究会については、下記の通りである。なお、案内及びプログラム等の詳細については学会ホームページに順次掲載するので、ご覧頂きたい。

(1) 2013年度第1回研究会（東北支部開催）（*発表申込みは締め切りました）

[テーマ] 今、科学教育に何が求められているのか

[日 時] 2013年11月9日（土） 10:00～16:00

[会 場] 岩手大学 学生センター棟 G2 大教室、他

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-33

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

[問い合わせ先] 第1回研究会企画編集委員 中村好則（岩手大学教育学部）

E-mail : *nakanori [at mark] iwate-u.ac.jp*

Tel : 019-621-6547 Fax : 019-621-6547

(2) 2013年度第2回研究会（九州沖縄支部開催）（*発表申込みは締め切りました）

[テーマ] 未来をつなぐ科学教育のあり方

[日 時] 2013年11月23日（土） 9:30 受付開始

[会 場] ホルトホール大分 4階会議室

〒870-0839 大分県大分市金池南一丁目5番1号

(交通案内 <http://www.horutohall-oita.jp/access/>)

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。

[問い合わせ先] 第2回研究会企画編集委員 竹中真希子 (大分大学大分大学教育福祉科学部)

E-mail : [tmakiko \[at mark\] oita-u.ac.jp](mailto:tmakiko[at mark]oita-u.ac.jp)

Tel : 097-574-7586 (竹中)、097-543-4933 (附属教育実践総合センター事務室)

(3) 2014年の研究会開催予定

2014年1月以後の研究会の開催については、次の通りである。

- ・北関東支部開催：2014年4月6日(土) / 会場：宇都宮大学教育学部
- ・南関東支部開催：計画中
- ・北陸甲信越支部：2014年3月下旬(計画中)
- ・東海支部開催：2014年6月 / 会場：三重大学教育学部
- ・中国支部開催：2014年5月31日(土) / 島根大学教育学部
- ・四国支部開催：計画中

2013年度支部シンポジウムのお知らせ

2013年度中国支部では、下記の通り支部シンポジウムを開催する。なお、詳細については学会ホームページに掲載するので、ご覧頂きたい。

○中国支部シンポジウム

[日時] 2013年12月7日(土) 13:00~17:00 (※終了後、懇親会を行います)

[会場] 岡山理科大学 15号館 4F 21531教室

[内容] 『eラーニングからブレンディッドラーニングへ(part5)』

[参加費] 無料

[発表申込み] メールに下記の項目を記載し、シンポジウム事務局：宮地 功(岡山理科大学)までお申し込み下さい。

- ①発表題目、②著者名(登壇者に○)、③所属、④連絡先住所、氏名、電話番号、メールアドレス、
- ⑤その他、発表に関する要望、⑥懇親会への参加・不参加

[申込み・連絡先] シンポジウム事務局 宮地 功

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

岡山理科大学総合情報学部情報科学科

E-mail : [miyaji \[at mark\] mis.ous.ac.jp](mailto:miyaji[at mark]mis.ous.ac.jp)

[申込み締切] 2013年11月15日(金)

[原稿提出締切] 2013年11月22日(金)

国際学会開催情報・海外の科学教育動向

1. 国際会議の案内 (1) STEM 国際会議 2014 ISMTEC2014

次の通り、タイのバンコクで国際会議が開催される。

会議名：STEM 国際会議 2014 ISMTEC2014

The International Science, Mathematics and Technology Education Conference
---Strategies for Implementing STEM Education in Schools---

開催日：2014年11月7日（金）～9日（日）

会場：タイ、バンコク、市内中心部アンバサダー・ホテル（予定、折衝中）

申込等：アブストラクト（150～500）締め切り、2014年3月30日

フル・ペーパー締め切り、2014年5月31日

主催機関：タイ国教育省・科学技術教育振興研究所 IPST

発表方法：ペーパー・プレゼンテーション、ワークショップ、ポスター／デモンストレーション

照会先：<http://www.ismtec.in.th> E-mail: [ismetec \[at mark\] ipst.ac.th](mailto:ismetec[at]mark[ipst.ac.th])

※本国際会議は、本年1月に、バンコクで開催された約1000名参加した国際会議について実施される。

2. IPST (Institution for the Promotion of Teaching Science and Technology) とタイにおける STEM 教育の動向

上記の国際会議のホスト機関、タイ国教育省・科学技術教育振興研究所 IPST は、1972年に設立され、現在は学術専門職員約200名、事務関連職員約100名で組織するタイを代表する教育研究機関。IEA 調査、PISA 調査、科学・数学・IT オリンピック、GLOBE プロジェクトの実施など国際的な活動も、この IPST に事務局を開設していて、日本でもかなり知られるとおりである。

バンコク中心部を走るスカイ・トレイン BTS のエカマイ駅近く、国立科学教育センター（国立科学博物館）、バンコク・プラネタリウムに隣接していて、ごく近くにユネスコのアジア太平洋地域事務所 ROEAP がある。

STEM 教育については、ASEAN 諸国向けの会合を主催してきて、指導的な役割を發揮することを目指している。米国の STEM 関連の国際会議にも、上層部や専門職員を派遣して、いち早く動向を把握している。

これまで、国内の SSH スーパー・サイエンス・ハイスクールをスタートさせてきた経過と実績があつて、STEM 教育の推進には、極めて積極的な対応をしはじめている。

第一は、国内12か所の STEM センターの設置と、センター周辺校5～6校を推進校に指定して、支援と助成の実施を開始している。

第二は、小学校（理科、算数）、中・高校（物理、化学、生物、環境、数学）、技術高等専門学校の12クラスターの教師対象に STEM 教育実践活動教師の表彰（Thailand STEM Teacher Awards）事業を開始している。この事業には国と地方機関などの支援を取り付けている。全国規模で公募して12名の教師に各10万バーツ（約35万円）の表彰・奨励金を与えるとしている。

参 考：本・情報提供者の大隅は、国立教育研究所（現・国立教育政策研究所）時代から IPST とは長い交流をしてきました。京都教育大を定年退官したのちも 2007 年 4 月～09 年 3 月の二年間、IPST でシニア海外ボランティア SV（JICA 派遣）として、いくつかのユニークな実験器具の開発に取り組みました。現在は、IPST とアユタヤ地域総合大学 ARU との共同プロジェクト（IPST-ARU joint project）のアドバイザーとして、手弁当のボランティアで頻繁に日本とタイを行き来しています。

上記の国際会議に参加される学会員で、IPST の見学や IPST 敷地内のレジデンスでの宿泊（2 ベット、ホット・シャワー、900～700 バーツ＝約 2,700～2,400 円、アカデミック割引交渉可）をご希望の方があれば、できる限りのアレンジをします。

また国際会議のフォロー・アップの一つとして、IPST で STEM 教育の実質的な運営に当たっているアピシット・トンチャイ（Dr. Apisit Thongcahi）との小ミーティングも早めにお知らせいただければ計画できます。大隅が、オフィスを設けている ARU とアユタヤへの小旅行やタイ国内の移動も含めて、お気軽にお問い合わせください。

来る 11 月 26 日から 3 月末まで、現地滞在する予定です。この滞在中のバンコク、アユタヤへのご来訪も歓迎です。

E-mail: oes [at mark] major.ocn.ne.jp 携帯: 090-6669-2722 タイ国内携帯: 086-524-5528

（京都教育大学名誉教授、甲子園大学特任教授・大隅紀和）

3. 国際会議の案内 (2) STEM 2014 Conference

2014 年 7 月 12～15 日に、カナダのバンクーバー、ブリティッシュコロンビア 大学にて、STEM 教育に関する国際会議が開催される。テーマは、「STEM Education and Our Planet: Making Connections Across Contexts」である。各種発表申し込み（3000 語以内で 4 ページ以内）の〆切は 12 月 9 日である。

大会ホームページ：<http://stem2014.ubc.ca/>

国際学会参加報告 (11) -ASERA-

2013 年 7 月 2 日から 5 日まで、ニュージーランド・ウェリントンにて Australasian Science Education Research Association (ASERA) 2013 Conference が開催されました。“Australasian”とは聞き慣れない言葉ですが、Australian+Asian を表した造語です。オーストラリア圏とアジア圏との科学教育研究の交流を促進している学会です。毎年オーストラリアで開催されており、4 年に一度ニュージーランドで開催されます。今年はその 4 年に一度のニュージーランドでの開催でした。

開催地ウェリントンはニュージーランドの首都です。この街にある国立博物館 Museum of New Zealand Te Papa Tongarewa で学会がありました。発表件数は一般口頭発表が 93 件、ポスター発表が 20 件でした。日本からは宮崎大学（日本科学教育学会長）中山迅先生と私が参加しました。アジア圏から参加した国は、タイ、台湾などがありました。ASERA の特色を手短にいうと、文化的側面からの分析・研究発表が豊かにあるということです。例えば、次のような発表タイトルがありました。

- Georgina Stewart, Teaching and learning science in Māori: Language, knowledge and identity.
- Thomas Owen & Brian Lewthwaite, Culturally Responsive Science Teaching in Indigenous Settings: What Does it Look and Think Like and What is its Influence?
- Rana El Farra & Tarik Rashid, Assessing Learning, Teaching and Thinking Levels in Y7-13 Science, Biology and Chemistry at one New Zealand high school.

科学教育のやり方や考え方に地域性が深く関わっていることを認識できるおもしろい学会です。また、口頭発表の持ち時間は40分あり、発表が20分であとの20分はディスカッションになります。ディスカッションでは発表者と聴講者の1対1の質疑応答だけでなく、聴講者同士で議論が進む場合もあります。自分の研究の方向性について第3者の意見や議論から確かめたりするのにうってつけです。今後もこうした国際学会での参加発表をはじめ、国内外の研究動向を広く知り、深めていく機会を持ち続けたいと思います。

プログラム詳細が ASERA2013 学会ホームページに掲載されています。ぜひご覧ください。
<http://www.nzcer.org.nz/asera-2013>

(神戸女学院大学・三宅志穂)

国際学会参加報告 (12) -EASE2013-

2013年7月4日～6日にかけて、香港教育学院 (The Hong Kong Institute of Education) において、EASE 2013 (East-Asian Association for Science Education) が開催されました。本大会は隔年開催で、本年度は2011年に続く第3回目にあたり、“Building an International Platform for Exchange between Scientists and Science Educators”がテーマとして据えられました。東アジア地域 (韓国、台湾、中国、日本、香港) に留まらず、インド、シンガポール、スウェーデン、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナムなどを加えた、計12カ国/地域から349の発表 (口頭発表: 187件、ポスター発表: 120件、基調講演: 10件、シンポジウム: 7件、ワークショップ: 7件、その他展示など) がありました。日本からは、口頭発表: 16件、ポスター発表: 13件、ワークショップ: 1件、シンポジウム: 1件、展示ブース: 1件があり、前大会に比べると日本のプレゼンスも高かったとのことでした。

本大会の開会式において、東京理科大学の小川正賢先生が The Distinguished Research Award (学術賞) を受賞されました。この賞は、小川先生の科学教育に対する (1) 顕著な学術貢献 (extraordinary contributions to science education through research)、(2) 独創的かつ確かな研究インパクト (original and substantial impact on science education through research)、(3) 新規研究分野や方法論の開拓と牽引 (led to opening of new research areas or methodology in science education)、(4) 科学教育研究の促進に対する指導的な役割 (provided notable leadership in promoting science education research)、を果たした功績に対して贈られました。また論文賞および若手奨励賞が以下の方々の論文・発表に贈られました。

論文賞

国・地域	所属	受賞者	論文・発表タイトル
米国	南フロリダ大学	Dr. Benjamin HERMAN Dr. Dana ZEIDLER	Cross cultural epistemological patterns of reasoning on socioscientific issues
台湾	国立東華大学	Dr. Jing Wen LIN	A cross-grade study revalidating the evolutionary pathway of student mental models in electric circuits

若手奨励賞

国・地域	所属	受賞者	論文・発表タイトル
中国	北京師範大学	Dr. Rui WEI	How energy-related concepts in chemistry were constructed and its implications for chemical education: an analysis from a metaphorical perspective.
香港	香港教育学院	Dr. Peter Zhi Hong WAN	From the chalkface: Hong Kong in-service science teachers' views of the values of teaching nature of science to senior secondary students

昨年（2012年）8月に、中国の北京師範大学で EASE のサマー・スクールが開催されており、その際の参加者（上記東アジア 5 地域からの大学院生、指導教員）は、本大会において久々の再会を楽しんでいました。大会のテーマにふさわしく、科学教育分野における国際的なつながりが若い世代の間で築かれているようです。EASE は ESERA（European Science Education Research Association）との連携強化を図っており、これまでの地域内交流から、世界規模の地域間交流への発展を模索しています。今後は「世界の中の日本」という一国の視点だけでなく、「世界と東アジアの地域間交流における日本」という視点が意識されていくのかもしれない。

国際学会に参加するたびに、世界でご活躍されている日本の先生方や学生にお会いし、様々な刺激を頂きます。2013年、EASE のサマー・スクールは開催されませんが、ウィンター・スクールが韓国の梨花女子大学校（Ewha Womans University）で予定されています。また次大会の EASE2015 が中国の北京師範大学において開催されます。ご興味のある方は EASE のウェブサイトをご覧ください。<http://new.theease.org>

（高松森一郎・広島大学大学院国際協力研究科）

特集「学習科学」投稿締め切り 延長のお知らせ

「科学教育研究」第 38 巻第 2 号での特集を企画しています。テーマは、「学習科学 (Learning Sciences)」です。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふらってご投稿のほど、お願い申し上げます。詳細は、「JSSE ホームページ：新着情報：特集投稿募集のお知らせ」(<http://www.jsse.jp/jsse/>)をご覧ください。

■投稿締め切り：2013 年 10 月 31 日（締め切り日が、9 月 30 日より 1 ヶ月間延長されました）

■発刊予定：2014 年 6 月

2013 年度第 1 回編集委員会報告

2013 年 9 月 6 日（金）14:00～15:00、平成 25 年度第 1 回編集委員会が三重大学共通教育校舎 2 階 PBL 1 教室において開催された。

まず、編集委員の紹介が行われた。2010～2013 年度委員、2012～2015 年度委員が集まるのは、昨年の年会時に開催された平成 24 年度第 1 回編集委員会に続いて 2 回目である。

次に、「科学教育研究」の編集状況の報告が行われた。新規投稿論文（2013.6.1～2013.8.31）：22 編（内訳：和文 22 編、英文 0 編）、査読中論文（2013.8.31 現在）：28 編（内訳：担当編集委員選定中：6 編、査読者選定中：5 編、査読中（1 回目）：5 編、担当編集委員による総合判定中（1 回目）：4 編、改訂稿待ち：2 編、査読中（2 回目）：4 編、担当編集委員による総合判定中（2 回目）：2 編）、掲載決定論文（2013.6.1～2013.8.31 現在）：4 編（内訳：研究論文 3 編、資料：1 編（通算合計 37-3：7 編、37-4：1 編））。

次に、論文執筆要項変更、掲載不可判定論文の修正投稿の扱いについて、寺田編集担当理事より説明があった。

最後に、村山特集編集部会長から、第 38 巻特集「学習科学 (Learning Sciences)」について、進捗報告があった。また、編集委員により、論文投稿や査読に関して意見交換が行われ、今後取り組んでいく課題等が確認された。

次回、平成 26 年度第 1 回編集委員会は、2014 年 9 月 13 日から 15 日の年会（於：埼玉大学）期間中に開催予定です。平成 25 年度第 1 回編集理事会は、2013 年 11 月 16 日（土）、午前 11 時から 14 時、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成25年8月31日 現在)

	新規投稿論文数		審査中論文数		掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2012年 9月	9	0	25	0	0 (36-3) 2 (36-4)	0 (36-3) 0 (36-4)	0		9	0
10月	21	1	42	1	0 (36-4) 3 (37-1)	0 (36-4) 0 (37-1)	0		1	0
11月	7	0	36	0	3 (37-1) 0 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		11	0
12月	7	0	36	0	2 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		4	0
2013年 1月	7	0	36	0	0 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 1 (37-2)	0		5	0
2月	2	0	31	0	0 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		5	1
3月	12	0	31	0	5 (37-2) 0 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0	2 (37-2)	7	0
4月	3	1	32	1	0 (37-2) 0 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0		2	0
5月	4	0	24	1	0 (37-2) 4 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0		8	0
6月	5	0	23	1	2 (37-3) 0 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		3	1
7月	11	0	30	0	1 (37-3) 0 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		4	0
8月	6	0	28	0	0 (37-3) 1 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		7	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第214号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：久保田善彦 (宇都宮大) 谷塚光典 (信州大)
 委員：縣 秀彦 (国立天文台) 銀島 文 (国立教育政策研究所)
 稲垣成哲 (神戸大) 東原貴志 (上越教育大)
 今村哲史 (山形大) 山口武志 (鹿児島大学)
 幹事：内ノ倉真吾 (鹿児島大) 小松孝太郎 (信州大)

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 宮崎大学大学院教育学研究科 内

□事務支局 (入退会・会費・学会誌発送関連)

中西印刷 (株) 学会部 内

□編集事務局 (論文投稿・査読編集)

中西印刷 (株) 学会部 内

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会